

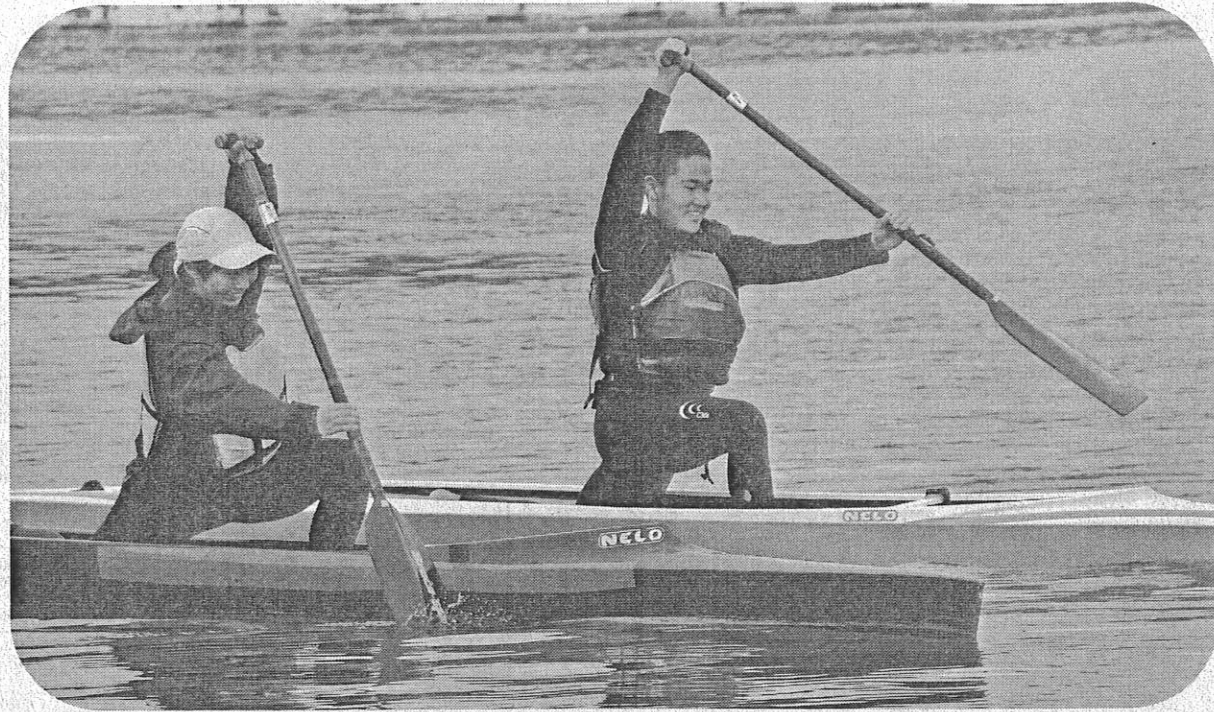
世界へ 田辺のカヌー

五輪選手に続け

次世代担う人材育つ

田辺市の文里湾を拠点に活動する「田辺カヌースプリントクラブ(CSC)」は、次世代を担う選手を育てている。2019年度は神島、田辺工業、田辺の3高校のカヌー部員と地元の小中学生の計42人が在籍し、過去最多の4人が国際大会に出場した。

保富 一成



田辺CSCは、谷地利和監督(47)＝田辺工業高校カヌー部顧問＝や、12年のロンドン五輪で8位入賞した元日本代表で現役選手の阪本直也さん(31)＝神島高校カヌー部顧問＝らが指導。東京五輪に男子カヤックフォアで出場が決まった富田悠佑選手(28)＝県教育センター学びの丘＝も一緒に練習している。

林実央さん(18)＝神島高3年、濱本字龍君(15)＝新庄中3年＝、岩瀬智哉君(14)＝同＝の4人が出場した。谷地監督は「国際大会を経験することでチームにもたらず影響は大きい。現役のオリンピック選手に見習うことも多く、本物に触れられる貴重な機会」と話す。

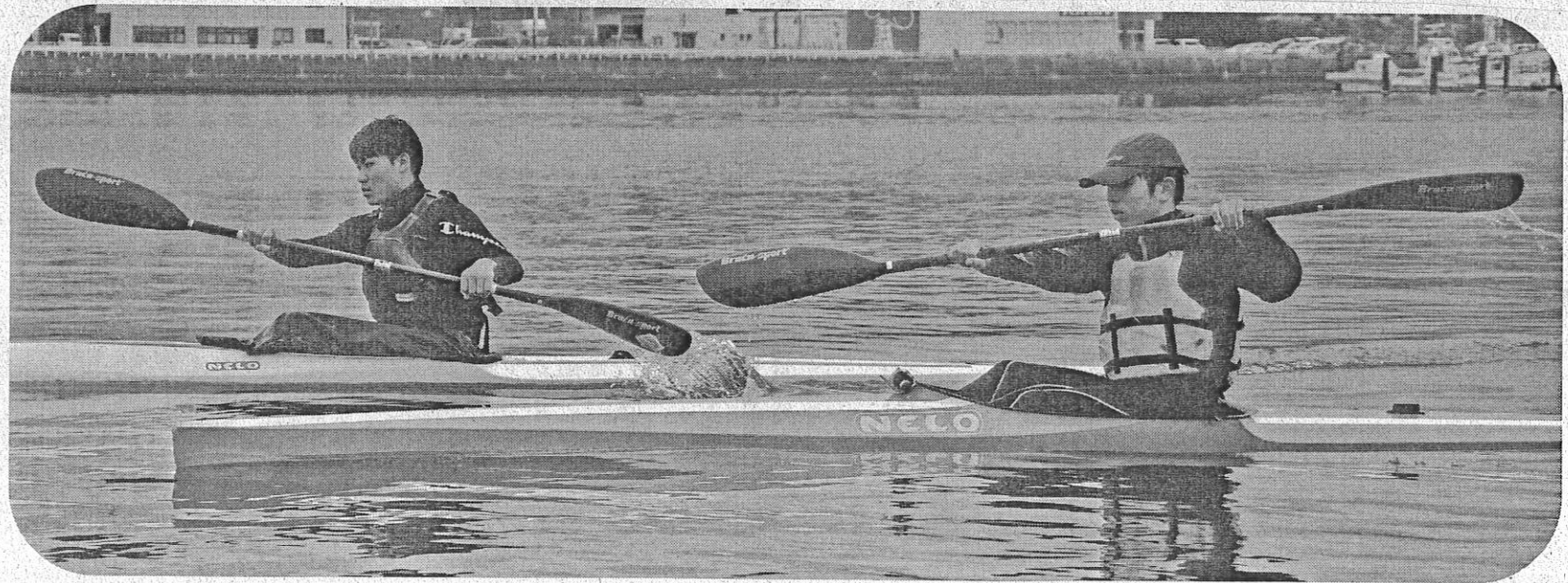
カヤックの練習に励む富塚晴之君(左)と岩瀬智哉君＝田辺市の文里湾で



富田悠佑選手(前列中央)の東京オリンピック出場を祝う田辺カヌースプリントクラブのメンバー

＝2019年8月、田辺市新庄町で

カナディアンで国際大会に出場した小林実央さん(左)と濱本字龍君＝田辺市の文里湾で



国際大会で活躍

小林さんは、19年8月にルーマニアであった世界ジュニア選手権大会に出場。U18(18歳以下)の女子カナディアンシングル(WC1)200級でB決勝8位(全体17位)だった。顧問で同じカナディアンの選手の阪本さんから指導を受けて、カヌーの楽しさを知り、高校卒業後も武庫川女子大学(兵庫県)でカヌーを続ける。4月にある東京五輪の最終選考会に出場する予定で、五輪出場の可能性に懸けている。「阪本先生に『俺の分まで頑張れ』と言われてもらった。ベストを尽くしたい」と意気込みを話す。

富塚君は、19年5月にニュージーランドであったアジアパシフィック選手権に出場。U18の個人と団体計7種目で3位以内に入賞した。8月の高校総体はカヤックシングル(K1)500級で2位、10月の茨城国体では少年男子K1の500級と200級で優勝。「国体でやり切った」といい、高校卒業後にカヌーを続けるかは未定という。

濱本君と岩瀬君は、19年9月にスロバキアであったオリンピックホープスにU15代表で出場。濱本君はC1、岩瀬君はK1で、いずれも準決勝で敗れたが、国際大会を経験してますますカヌーへの意欲を高めた。2人とも地元の高校へ進学してカヌーを続ける予定だ。